

百姓修理仕候。及大破候得ば御郡奉行申談、年寄中にて相違、御納戸銀を以修理有之候事。

一、往還道筋并宿方海川付寄崩申刻は、損所御郡奉行致吟味、私共連判仕、御普請會所にて相違、役銀を以修理有之候事。

一、村々境松立枯、又は風吹倒候得ば、代松拜領仕度旨其組十村より書付出候に付、奥書仕、御算用場に出し裏印を取、御郡奉行より爲請取候事。

一、濱端田地砂吹人、作不出來に罷成候所は、爲砂除之苗松拜領仕度旨十村書付出候得ば、私共村廻之時分様子見届、右書付に加奥書、御算用場裏印を以御郡奉行より爲請取申候事。

一、鴻廻井川筋之田地養通船造申度旨、十村書付出し候得ば、様子承届奥書仕、御算用場に出し裏書を取、船爲造申候事。

一、富五郎様金澤廻御出被遊候刻、自然御せこ人足并御供船出し、貨銀被下候得ば請取相渡申候事。

一、照打續用水切申刻、新川郡上瀧村近邊、富山御領と用

水番水仕候。彌不足仕候得ば、十村方より案内次第、爲縮私共之内兩人并新川御奉行申談、御領境之村に罷越、照之内附罷在、申分不仕様申付候事。

一、御算用場式日之外、一ヶ月に六日宛御算用場へ罷出、改作方諸事御用相勤申候。尤御用繁多に御座候得ば、毎日罷出申候事。

一、私共之内三人、御算用場御奉行受差圖、御勝手方圖り等之御用相勤申候事。

右改作方格に仕相勤候品々如此御座候。此外跡目出入等之儀に付、先例無之儀茂御座候。左様之時分は、御算用場御奉行示談之上を以其筋々申付候。以上。

元祿十六年未六月二日

- 毛利又太夫
- 福島 淺右衛門
- 中村 四兵衛
- 高田 作右衛門
- 堀 孫左衛門
- 根來 九兵衛
- 佐藤 忠左衛門

四 改作被仰付候節諸事覺

御郡中段々改作被仰付年月之事

印 牧少兵衛  
今村源太夫

一、承應元年十月より明曆二年十月迄

能美郡

一、慶安四年より明曆元年迄

石川郡

一、同斷

加賀郡

一、同斷

礪波郡

一、慶安四年二月より明曆元年迄

射水郡

一、慶安四年正月より明曆三年迄

新川郡

一、萬治三年九月より改作被仰付

新川郡之内百八ヶ村

淡路守様先御領知

一、萬治三年九月より改作被仰付

同郡之内六ヶ村

飛驒守様先御領知

一、承應二年二月より明曆元年迄

羽咋郡

一、同斷

能登郡

一、寛文拾壹年より改作被仰付

同郡之内五拾九ヶ村

以上。

改作入用銀高之事

長故九郎左衛門先知

一、承應元年十月より同二年迄

鳳至郡  
珠洲郡

一、貳拾七貫四百九拾目八分七厘

能美郡

一、百六拾七貫百參拾目六分貳厘

石川郡

一、七拾壹貫參百四拾六匁三分

加賀郡

一、百六拾貫貳百九拾目八分六厘

礪波郡

一、七拾壹貫四百六拾八匁分八厘

射水郡

一、八百目

新川郡舟見野新開

百姓馬買申代銀

一、七拾四貫六百八匁壹分七厘

羽咋郡

一、參拾壹貫九百六拾貳匁九分貳厘

能登郡

一、六拾貳貫九匁貳分

鳳至郡

一、貳拾八貫四百五匁五分

珠洲郡

一、六百九拾五貫五百拾貳匁七分貳厘